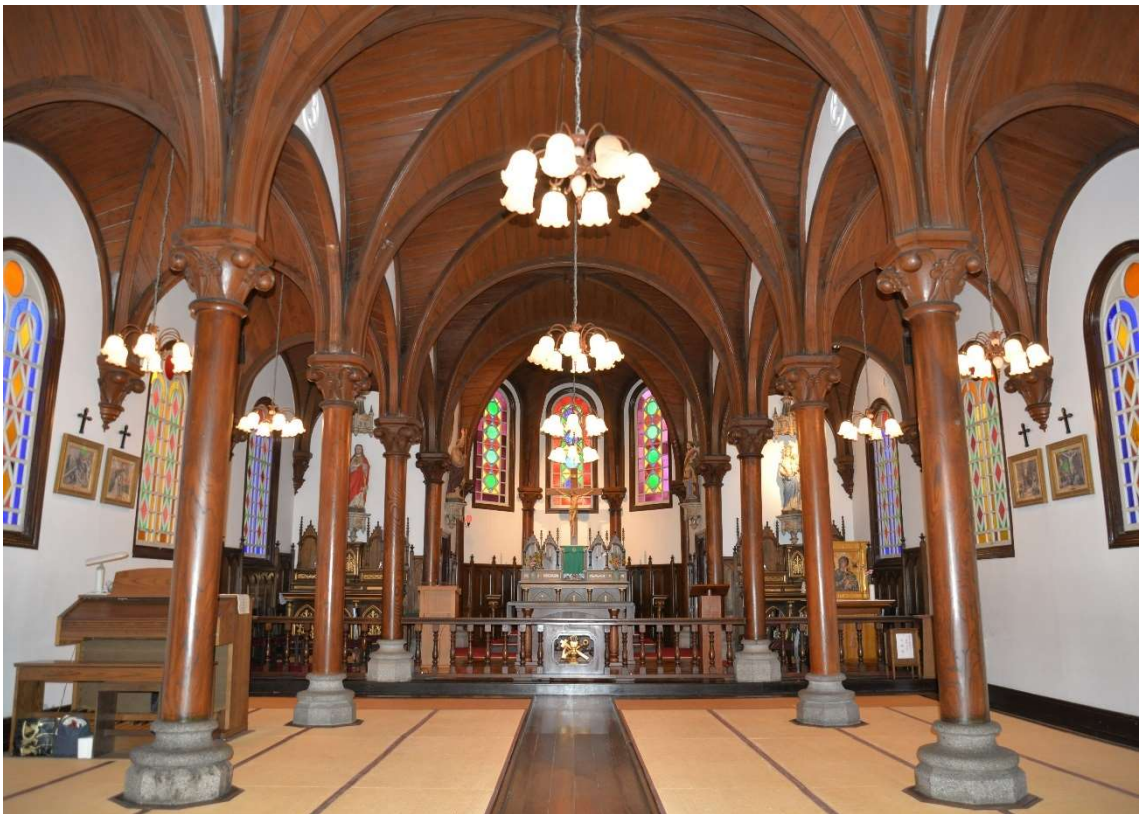


新規指定の重要文化財

名 称	みやづせんじゃせいよはねてんしゅどう 宮津洗者聖若翰天主堂	棟 数	1 棟
所 在 地	きょうとふみやづしあざやなぎなわて 京都府宮津市字柳 縄手347 番地		
所 有 者	宗教法人 カトリック京都司教区		
指定基準	(三) 歴史的価値の高いもの		
建 物 名	構 造 形 式		建 立 年 代
みやづせんじゃせい 宮津洗者聖 よはねてんしゅどう 若翰天主堂	三廊式教会堂、木造、建築面積 208.09 平方 メートル、一部二階建、棧瓦葺		明治 29 年 (1896)
[解説] <p>宮津洗者聖若翰天主堂は、宮津市の中心市街地に所在する教会堂で、明治 29 年（1896）に献堂された。「洗者聖若翰」とは洗礼者聖ヨハネのことで、明治中期に但馬から若狭地域にかけて布教を進めたルラブ神父が設計し、地元の大工が施工した。昭和 2 年（1927）の北丹後地震で外装等を破損したため、同年中に正面の外観などを改築した。</p> <p>長崎以外に現存する木造のカトリック教会堂として最古級の事例であり、震災後の増改築も含めて、教会堂建築の歴史を知る上で貴重である。また、堂内の意匠はカトリック教会堂として高い完成度を示し、畳敷きの会衆席は当時の布教の様子を伝える。</p> <p>以上のように、宮津洗者聖若翰天主堂は、我が国のカトリック教会伝道の姿を今に伝える遺構として重要である。</p>			



宮津洗者聖若翰天主堂 外觀



宮津洗者聖若翰天主堂 内部